

客観性を確保するために、 すべての個別評価に第三者意見を付しています。

～開発途上国の視点からも検証～

当行は、評価の客観性を確保するために、すべての個別評価について、開発途上国の有識者に評価結果の検証を依頼し、検証結果を第三者意見として公表しています。第三者意見は、事業ごとにその要旨を第三者のプロフィールとともに紹介していますが、下記に例として「インディラ・ガ

ンジー運河地域植林事業」(P.63参照)に対する第三者意見を全文掲載しています(他の事業についての第三者意見全文版は、当行ホームページに掲載している個別評価報告書全文版の最終頁をご覧ください)。

■ 第三者意見全文版 41 インド「インディラ・ガンジー運河地域植林事業」

妥当性

本事業の目的は、ラジャスタン州のインディラ・ガンジー運河地域における森林プログラム実施を通じ、環境を改善することによって貧困を削減することである。これは、歴代インド政府が過去50年間にわたり五カ年計画の下で継続して実施してきた貧困削減政策および州政府の砂漠化防止政策と合致する。さらに、貧困削減と環境改善は、近年策定された国連のミレニアム開発目標においても強調されている。事業対象地区は、タール砂漠のビカネールとジャイサルメールである。この地区は植生がわずかで、燃料用薪と家畜用飼料が大幅に不足している。薪は調理に利用され、家庭の女性構成員によって集められるが、薪の入手が困難なため、女性はストレスを受ける。女性は薪の収集に長い時間をとられ、結果として他の家事に費やす時間が減少するからである。いかなる森林プログラムであれ、薪の供給を増加させるものであれば地区の女性の支援となるであろう。

家畜の飼育は地区住民の主要産業であり、家畜への依存は長年にわたり拡大してきた。家畜数は1970年代以降急激に増加し、それに伴って家畜用飼料の需要も増大してきた。森林は飼料の主要供給地であり、森林面積および密度の増加は、対象地区における家畜飼育の制約となる飼料不足解消に貢献するだろう。

砂丘の形成は、乾燥したタール砂漠地域の典型的特徴である。強風はたびたびこれらの砂丘を移動させ、時には飛砂が一つの村全体を覆うことさえある。森林は砂の飛来を抑え砂丘の移動を防ぐことにより、村を防護する潜在力をもつ。さらに、森林は土壌の湿度を保ち、土地の生産性を高めるのに役立つ。森林は移動する砂丘から運河を守り、運河の水の蒸散率を最小化することによって、より長期にわたり運河を保全している。

したがって、地区にとって本事業の妥当性はきわめて高く、また、本事業は国家の重点政策および地域ニーズとも合致していると結論づけることができる。

インパクト

本事業のインパクトは、インディラ・ガンジー・ナハール・プロジェクト※の他のコンポーネントとあわせて理解されるべきものである。灌漑水路に沿った砂防林により、水はより遠くまで運ばれ、森林の保水・侵食防止効果により水の流失は最小限に抑えられている。したがって砂防林は、以前よりも大量の水を供給するのみならず、より広い地域に灌漑の恵みを与えることによって、水の生産性(有効性)を増大させている。森林プログラムは、比較的乾燥した季節である冬季に土壌の湿度を上昇させることにより、小麦、カラシのほか冬季に育てる野菜の生産性を増大させた。

本事業は燃料用薪の収集量を増やしたが、これは女性にとって大きな利益となった。時間とお金を節約できるからである。また、家畜用飼料の供給量も増やした。これによって住民は、主要産業である家畜飼育のために各地を移動する必要がなくなり、一カ所に定住することが可能となった。さらに、防風林により、より快適な生活環境を作り出した。

植林事業は、収入および雇用増加に積極的貢献を果たしている。農業活動の拡大は、より多くの雇用機会を創出した。住民は植林活動と森林生産物の収集活動にも雇用されており、これらの活動は彼らの収入補完を可能にしている。

※ラジャスタン州政府による総合地域開発事業であり、本事業もその一部をなしている。



Mr. Subrata Mandal

ジャワハルラール・ネルー大学博士課程修了(経済学)。現在国立国家財政政策研究所、シニア・エコノミスト。専門は経済、環境政策、エネルギー政策等。植林と貧困削減の研究にも取り組んでいる。過去にはジャミア・ミラ大学等で教鞭をとったほか、アジア開発銀行や計画委員会においてそれぞれマクロ経済モデル、エネルギー政策のコンサルタントとして活躍。